

高校生が奮起している科学オリンピックで日本人のメダルラッシュが続いた。

エストニアで7月24日まで行われていた第43回国際物理オリンピックでは、金メダル2つ、銀メダル3つを獲得した。大会には81の国と地域から378人が参加した。

金メダルは、昨年金メダルを獲得した灘高校2年の榎優一さん、昨年銀メダルを獲得した開成高校3年の笠浦一海さんが獲得した。銀メダルは、灘高校2年の大森亮さん、灘高校3年の川畑幸平さん、滋賀県立膳所高校3年の中塚洋佑さんが獲得。日本からの参加者全員がメダルを獲得した。

米国で30日まで行われた第44回国際化学オリンピックでは、金メダル2つ、銀メダル2つと日本人参加者全員がメダルを獲

物理、化学
日本人参加者全員メダル

科学五輪で高校生奮起

得した。今回は72の国と地域から283人が参加。

金メダルは、昨年も金メダルを獲得した立教池袋高校3年の副

来年3月には学校対抗「甲子園」

一方、国内では高校生が学校対抗で科学の知識と技能を競う「科学の甲子園全国大会(主催:JST)」の第2回大会が来年3月23~25日に兵庫県立総合体育館(西宮市)で開催されることが決定した。既に7月末から各都道府県代表を決める予選が始まっている。

大会では、6~8人で構成されるチームを学校単位で編成。教科・科目の枠を超えた問題も出題される筆記競技と、実験や実習などチームワークを活かす実技競技を行う。主催者側は「第1回大会では、それぞれが

島智大さん、灘高校3年の山角拓也さんが獲得した。銀メダルは、筑波大附属駒場高校3年の加藤雄大さん、大阪教育大附属

黙々と問題を解いていたが、来年の大会ではチーム内で話し合いながら答えるような課題を増やしたい」とした。

昨年の大会には363人が参加(うち女子は64人)。優勝した埼玉県立浦和高校は、米国で行われたサイエンスオリンピックに派遣された。参加メンバーで物理部部長の西颯人さんは「普段(の勉強)はインプット・アウトプットだけど、大会ではインプットがない中で、組み合わせで回答しなければならない。本来の学問としてはその方が正しい」と語った。化学部、生物部、

高校天王寺校舎3年の澁谷亮太さんが獲得した。なお、山角さんは、実験試験で1位の成績だった。

都道府県予選始まる

地学部の部長を務めている原雄大さんは「科学(に関する競技)をこんなに華々しくやるなんて驚いた。楽しい競技ばかりだった。発想力や手先の器用さなどが試された。チームワークが良く、皆の得意な部分を活かしたので優勝できた」と話した。

個人の学習のモチベーションあげる国際科学オリンピック、チームで課題を解決する科学の甲子園。双方で、アプローチの仕方や目標は異なるが、科学に関してもっと学習したいという人を増やす契機となるのは間違いない。